

第1回OECC 橋本道夫記念シンポジウム パネルディスカッション冒頭発言⑤

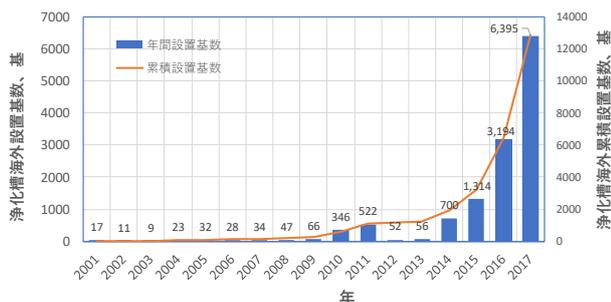


元埼玉大学大学院
理工学研究科教授 河村 清史

これまで地球規模の話が多かった中で、私からは非常に小さな規模の話になってしまうので、若干心配しておりましたが、福土先生のお話のおかげで少し話しやすくなりました。

浄化槽の海外展開の話になりますが、ごく最近になって海外への輸出の事例が出だし始めましたけれども、過去はほとんど輸出できてなかったというのが実情です。

浄化槽の輸出実績 (一社)浄化槽システム協会)



最近、アジア地域において、またオーストラリアやアメリカでも輸出の事例が増えだしている傾向があります。

当初 1980 年代から 90 年代で、もうすでに民間で海外展開をやろうとしていたのですが、その中身は、資材・部品調達や技術協力・供与等が中心になっていました。現実問題としては、システム全体を相手国で展開するまではいかなかったという状況がありました。

ODA によって主として旧建設省や環境庁で実施してきた事例を紹介すると、まず旧建設省ではインドネシアで浄化槽の実証試験等をやってきました。それから、旧厚生省（後に省庁再編で環境省に移管）では、インドネシアにおいて約 10 年間に亘り、実際の浄化槽を設置して、その運用に係わる調査や技術供与を含めたプロジェクトをやってきました。環境省に移管後は、OECC が事務局を担当されました。

このプロジェクトは、現地の人たちに月一回維持管理や水質のデータを取ってもらい、それらを評価しながら運用してきた事例です。かれこれ 7、8 年のデータですけれども、処理水水質レベルでは、BOD20

mg/L 以下のレベルを十分にクリアできるようになってきていたということで、やりようによっては浄化槽の機能を十分果たしたという事例です。

あと、環境省で現在やられていますのがし尿処理システムの国際普及推進ということで、ここ数年間国内外で分散型汚水処理におけるワークショップなどの活動をされているというのが実態です。

それからもう一つ、JICA の方でやってこられたものとして、浄化槽に係わる調査のプロジェクトや研修があります。前者では、中国においていくつかの事例があります。また、研修ということでは、浄化槽そのものを主体に扱ったものではありませんが、下水道とか水環境とか廃棄物とかの分野での研修プログラムの一環で浄化槽を紹介する実績があります。さらに、2017 年からは、北九州市において、3 年間の予定で、浄化槽を主体とした集団研修が実施されています。

もう一つ、浄化槽の海外展開に関して、ODA 絡みでは浄化槽を建物と一緒に設置する仕組みがありましたが、先ほどの旧厚生省のプロジェクトの中で調査したインドネシアでの事例では、予算確保や部品調達の困難などから正常に機能していない浄化槽が多かったことが分りました。

総括として海外展開の課題を述べますと、浄化槽に関して、輸出とか現地生産、また管理の問題、それから普及の推進というものを取り上げたとき、それぞれで様々な事柄が関わってきます。これらは政府間の協力や技術協力とか、企業の努力とかで対応していく必要がある訳ですが、相手方政府や方自治体とうまく対話しながら、あるいは官民の連携をしながら、その国ごと、その地域ごとの状況を把握して対応していかないと、なかなかうまくいかないと思っています。

準備した資料には、民間の最近の展開事例がありますが、時間が来ましたので説明を割愛します。